

## 令和3年度地域包括支援センター事業評価と計画（令和3年11月末時点）

## 印西市船穂・牧の原地域包括支援センター

事業ごとの評価と計画	
総合相談支援業務	相談件数は昨年度とほぼ同数であった。内容としては介護保険が多いが、昨年と比べると疾病、認知症に関する相談が増えている。地域課題として認知症について取り組んでいるので、継続していく。
権利擁護業務	虐待相談件数は昨年度とほぼ同様であった。主介護者が働き盛りの男性の事例があり、世代に関係なく啓発活動に取り組んでいく必要性を感じている。消費者被害について、消費生活センターや警察から情報提供を受け、広報誌やカフェで市民に情報提供を行った。
包括的・継続的ケアマネジメント業務	介護支援専門員からの意見を踏まえ、地域ケア推進会議にて、圏域の介護支援専門員と民生委員が顔の見える関係を作ることができるよう支援した。今年度は、介護支援専門員の後方支援として、コロナ禍によりオンラインでの研修が増えたことから、5包括共同で「いんばケアマネネットワーク」にて、ZOOM練習会を企画、実施した。
地域ケア会議推進事業	個別ケア会議を1回実施、地域ケア推進会議を1回実施した。（コロナ禍で1回中止）男性介護者支援について話し合い、男性介護教室の開催を検討している。
在宅医療・介護連携推進事業	第1回在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議に出席し、市の事業計画を共有した。
認知症施策推進事業	認知症カフェを6回計画し、3回開催した。緊急事態宣言の為に2回中止せざるをえず、代替を1月に計画している。認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくことが出来る地域づくりを目指し、「認知症サポーター養成講座」を2回、「高齢者見守り声かけ訓練」を1回実施している。
生活支援体制整備事業	世代や障害、認知症などに関係なく誰でも参加できる場として、コミュニティカフェ「ふれあいカフェ」を5回開催した。

	<p>コロナ禍でもつながる機会を作るため、そうふけふれあいの里内に伝言板の設置やオンラインカフェを開催した。圏域の自治会長に対して助け合い活動に関するアンケートを実施し、地域課題の把握に努めた。</p>
<p>令和3年度事業中間評価（総括）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター周知のため、隔月で広報紙を作成し、可能な限り直接地域に出向いて関係づくりを行った。コロナ禍においても関係性が継続できることを強く意識し、郵送や電話等を行い対応を行った。</li> <li>・相談件数と相談経路（来所、電話、訪問等）はほぼ昨年同様であった。来所件数が少ないこと、場所が分かりにくいとの問い合わせがあり課題ととらえ、出張相談会を行っている。出張相談会を継続的に行いながら、さらなる周知活動について工夫をしていく必要があると考えている。</li> <li>・地域ケア推進会議で話し合われた「地域で認知症を学ぶ必要がある」という課題に対して、「認知症サポーター養成講座」「高齢者見守り声かけ訓練」の実施を地域住民に働きかけた。コロナ禍の影響があり、1か所のみ実施した。継続的に実施を働きかけていきたいと考えている。</li> </ul>	